

平成15年3月5日  
原子力安全対策課  
(14-120)  
<16時記者発表>

敦賀発電所1号機の原子炉手動停止について  
(原子炉再循環ポンプメカニカルシール機能低下の原因と対策)

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所1号機(沸騰水型軽水炉;定格出力35.7万kW)は、定格電気出力で運転中のところ、3台ある原子炉再循環ポンプの2台(B、C号機)の軸封部<sup>\*1)</sup>(メカニカルシール)で機能低下が認められるため、念のため原子炉を手動停止し、当該軸封部を取り替えることとした。

なお、この事象による環境への放射能の影響はない。

[平成15年2月27日記者発表済]

調査の結果、原子炉再循環ポンプの2台(B、C号機)のメカニカルシールのうち、B号機は第2段、C号機は第1及び第2段の固定リングシール面に小さな傷が確認された。

このことから、シール面に生じた傷により、メカニカルシールの機能がそれぞれ低下したものと判明した。また、傷の原因については、微小な異物がシール面に混入したためと推定された。

対策として、B号機及びC号機の第1段および第2段メカニカルシールの固定および回転リングを新品に取り替えた。

今後、再循環ポンプの試運転を実施した後、明日、原子炉を起動し、翌7日、発電を再開する予定である。

なお、敦賀発電所1号機では、今回の発電再開時から定格熱出力一定運転<sup>\*2)</sup>を実施することとしている。

- \* 1) ポンプ内の冷却水がポンプ主軸に沿ってポンプ外部に出ないようにするために設けられている。
- \* 2) 原子炉熱出力を常に一定(100%)として運転する方法で、海水の温度が下がり、復水器の性能(熱効率)が良くなる冬季において、これまでの定格電気出力を最大で約1%程度上回る運転が見込まれる。

( 経済産業省による I N E S の暫定評価尺度 )

基準 1	基準 2	基準 3	評価レベル
-	-	0 -	0 -

問い合わせ先(担当：小西)  
内線2354・直通0776(20)0314

